

生涯教育研修会報告書

学発番号 第11-057号

日時：平成23年11月26日（土）14:00～17:00

場所：京都大学医学部附属病院 検査部

主題：薬剤感受性検査の基礎と耐性菌の検出法

講師：西口 晴美、成田 弓子、田中 裕人、樋口 武史 先生

講師所属：京都桂病院、京都医療センター、ファルコバイオシステムズ総合研究所、京都大学医学部附属病院

報告者：成田 弓子

所属：京都医療センター

分類：20点

全体参加人数：18人

京臨技のみ所属会員参加人数：

以下、講演内容など

薬剤感受性検査は、抗菌薬の選択や薬剤耐性菌を検出する目的で行われ、日本では主にCLSIのブレイクポイントに従って判定されている。特異的な薬剤耐性がある場合には、対象薬剤はMIC、阻止円径に関係なく耐性と報告する必要があるため、適切な方法で正確に判定し薬剤耐性を見逃さないようにしなければならない。実習では、MRSA、VRE、ESBLs、MDRP、MBLについてそれぞれの耐性機構とブレイクポイントについて聴講したあと、ディスク拡散法の判定を行った。

MRSA：すべての β ラクタム薬を耐性と報告する。

VRE：院内感染対策の対象はプラスミド性のvanAとvanB。vanBはディスク拡散法でVCMが感性和判定されることがあるので注意する。

ESBLs：M100-S19の基準で判定する場合は確認試験が必要。陽性ならペニシリン系、セファロスポリン系、モノバクタム系を耐性と報告する。

MDRP、MBL：CLSIでは判定基準は定められていない。ほとんどの β ラクタム系薬が耐性となる。

（報告者 成田弓子）